

令和7年度 岡山県 英語教育改善プラン

児童が主体的に英語学習に取り組めるよう、各単元の学習到達目標を基に自分で学習計画を立て、自己の学びを振り返ることができるよう支援するとともに、中学校との接続や学びの連続を意識した指導を推進する。

目標

- 言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他
- (パフォーマンステスト含む) (専科教員含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①CAN-DOLISTの活用

| | R5 | R6 |
|----|-------|-------|
| 公表 | 83.9% | 92.4% |

②ルーブリックを活用したパフォーマンス評価の実施

| | R5 | R6 |
|------|-------|-------|
| 実施 | 49.5% | 52.2% |
| 実施予定 | 44.1% | 42.0% |
| 合計 | 93.6% | 94.2% |

学習指導・生徒指導等の取組状況調査（県独自）

①小中連携状況

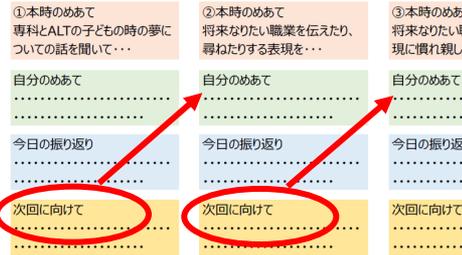
| | 岡山県 | 全国 |
|----|-------|-------|
| R5 | 77.4% | 82.8% |

令和5年度英語教育実施状況調査

小中連携したカリキュラムや学習到達目標等を設定している学校の割合が、17.4%（全国値27.6%）と低く、小中の英語担当教員の連携が必要である。

2. 要因分析

①②児童が学習到達目標の達成に向けて、毎時間「自分のめあて」と「振り返り」を往還しながら主体的に学習を進めることができるように、研究校の振り返りシートをモデルとして、英語専科教員研修会で示した。



①小中の英語担当教員が、時間と場所を共有して、CAN-DOLISTを作成したり、研修を受講したりする機会の提供が不足している。
 ・CAN-DOLISTに小中連携の欄を設け、中学校の学習内容を確認する機会はあるものの、実際にどのような指導が行われているかについての理解が十分でない。

3. 目標を達成するための施策・事業

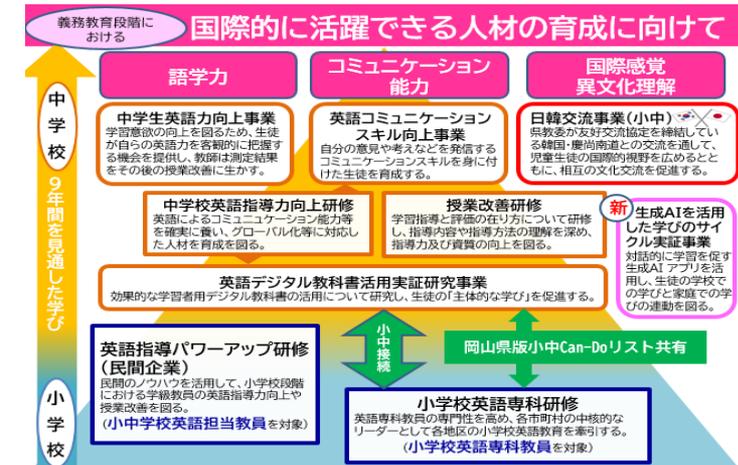
①②①に関して

・小学校英語専科研修

研究授業等を通して、学習指導要領に基づいた指導法について理解を深め、授業改善につなげる。

・英語指導パワーアップ研修

小学校教員の英語力向上及び英語指導力向上を図るとともに、小中の英語担当教員が、小中接続の観点から小中接続したカリキュラムの作成と協働して授業づくりを行うことで、校種間の相互理解を促進する。



令和7年度 岡山県 英語教育改善プラン

目標

「自律した英語学習者」になるために、生徒自身が具体的な目標や学習計画を立て、目標達成に向けた学びを自己調整できるよう支援するとともに、生徒に学びを委ねる場のある授業を推進する。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6: 51.6% → R7: 60%)

- 言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他 (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①授業における、生徒の英語による言語活動時間の割合が増加

令和6年度全国学力学習状況調査
授業の中で、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動を行っている生徒の割合

| 岡山県 (岡山市を除く。) | R5 | R6 |
|------------------|-------|-------|
| | 66.1% | 73.1% |

①英語担当教員が、英語学習における生徒の内省を促し、生徒が自らの学びを振り返り、次の学びに生かす機会とサイクルを確立する必要がある。

| 岡山県 | 小6 | 中3 |
|-----|-------|-------|
| R6 | 80.6% | 79.0% |

令和6年度全国学力学習状況調査
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている生徒の割合

2. 要因分析

①単元ごとに「話すこと」のパフォーマンス評価を行う学校の割合が増加

| 岡山県 (岡山市を除く。) | R5 | R6 |
|------------------|-------|-------|
| | 33.9% | 44.3% |

学習指導・生徒指導等の取組状況調査 (県独自)

パフォーマンス課題を設定することで、各単位時間の言語活動に意味を持たせた。また、言語活動を充実させるための手立てとして、右記(QRコード)の活用を働き掛けた。



①生徒が定期的に自らの英語力と課題を客観的に把握し、具体的な目標や学習計画を立て、目標達成に向けた学びを自己調整できる手立てが十分に行われていない。

また、英語学習において、AIや翻訳ツールを「正しい言い方(答え)」を教えてもらうために使うことが多く、目的や場面に応じて生徒が自分で適切な表現を試行錯誤しながら考える機会が減少していると考えられる。

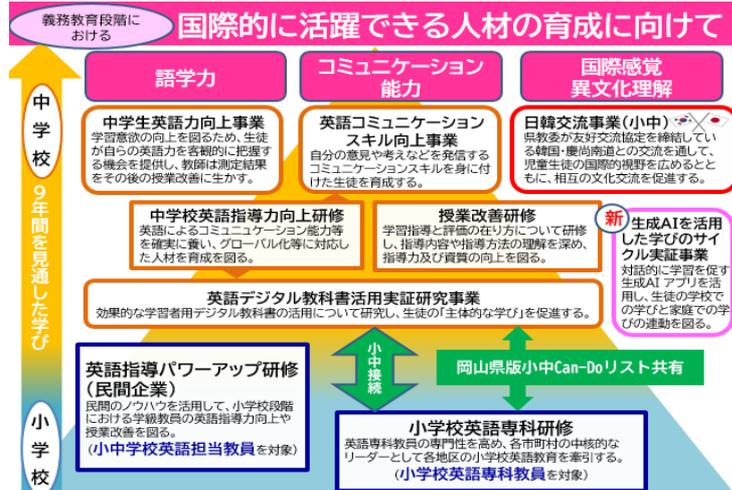
3. 目標を達成するための施策・事業

●岡山県中学生英語力向上事業

県内の中学3年生を対象に英検I B Aの受験機会を提供することにより、生徒自身が目標とした受験級を設定し、その目標に向けて学習計画を立て、自己調整をしながら学習を進めることで自律した英語学習者の育成を図る。

●生成AIを活用した学びのサイクル実証事業

授業及び家庭学習において、対話的に学習を促す生成AIアプリを効果的に活用する場を教師が設定することにより、学校の学びと家庭での学びを連動させ、生徒の情報活用能力及び自己調整力の向上を図る。



令和7年度 岡山県 英語教育改善プラン

生徒の発信力強化のための教員の英語指導力を向上させるとともに、授業改善を進めることにより、生徒の英語力の向上を図る。

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R6 : A2以上 53.3%、B1以上 20.4% ⇒ R7 : A2以上 60%、B1以上 25%)

目標

言語活動 指導と評価の一体化 教師の英語力・指導力 校種間連携 ALTの参画 ICTの活用 AIの活用 その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

① 生徒の英語力

※CEFR A2レベル相当以上を達成した生徒の割合

| R5 | R6 |
|-------|-------|
| 51.9% | 53.3% |

② 英語担当教員の英語力

※CEFR B2レベル相当以上を取得している英語担当教員の割合

| R5 | R6 |
|-------|-------|
| 90.1% | 90.9% |

① 生徒の言語活動

※授業における、生徒の英語による言語活動の割合が50%以上

| R5 | R6 |
|-------|-------|
| 80.1% | 74.3% |

2. 要因分析

①②研修協力校による公開授業等を行い、生徒の実態に応じて4技能を重視した活動を重視した授業改善を進めたことにより、学校全体や個人的な自己研鑽の取組につながり、生徒や英語担当教師の英語力の割合が増加した。

①「生徒の発信力強化のための英語指導力向上事業」を実施し、生徒主体の授業づくりや生徒の英語による言語活動時間の割合が増加するよう働きかけているが、その割合は昨年度よりも減少しており、目標値にも達していない(目標値90%)。授業における生徒の言語活動の時間を確保し、生徒の英語による発話量を増加させるような取組がより一層求められる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②① 以下の各事業を行うことで、教員の英語指導力向上を一体的に進め、生徒の発信力強化につなげる。

・AI英語教材のモデル校への導入及び外国語指導助手の追加配置

モデル校にA I アプリを導入し、その効果的な活用についての研究を行う。また、そのモデル校にA L Tを追加配置し、授業内や授業外での積極的な活用を促し、生徒がA Iによる会話トレーニング等で培った発信力の強化を図る。

・英語教育推進リーダーの活用

県内の英語教育推進リーダーが本県の英語教育の現状及び改善について協議を行い、所属校での実践・公開授業・研究協議等を通じて、各校への普及を行うとともに、生徒の発信力強化に向けた個人的・組織的取組の改善を図る。

・指導教諭等による公開授業

県立学校に配置された指導教諭が授業を公開し、授業改善のモデルを示すことで、効果的な授業研究を推進する。

・外国語指導助手の指導力等の向上

授業公開やワークショップ等を通じて、効果的なチーム・ティーチングに関する実践発表・研究協議を行う。

岡山県教育委員会

| 校種 | 指標内容 | 2023 | | 2024 | | 2025 | | 2026 | | 2027 | | |
|-------------------------------------|-----------------------------------|------------|------|------|------|------|-----|------|-----|------|-----|--|
| | | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | |
| 高等学校 | ①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%) | 57 | 51.9 | 60 | 53.3 | 60 | | 60 | | 60 | | |
| | ①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%) | 20 | 20.1 | 22 | 20.4 | 25 | | 27 | | 30 | | |
| | ②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%) | 90 | 80.1 | 90 | 74.3 | 90 | | 95 | | 95 | | |
| | ③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%) | 50 | 41.1 | 55 | 45.4 | 60 | | 65 | | 70 | | |
| | ④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況 | 設定(%) | 100 | 100 | 100 | | 100 | | 100 | | 100 | |
| | | 公表(%) | 80 | 56.3 | 80 | | 80 | | 80 | | 80 | |
| | | 達成状況の把握(%) | 80 | 76.1 | 90 | | 90 | | 95 | | 100 | |
| ⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%) | 85 | 90.1 | 90 | 90.9 | 90 | | 95 | | 95 | | | |
| ⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%) | 100 | 68.9 | 100 | 68.8 | 100 | | 100 | | 100 | | | |

| 校種 | 指標内容 | 2023 | | 2024 | | 2025 | | 2026 | | 2027 | | |
|-------------------------|-------------------------------------|------------|------|------|------|------|-----|------|-----|------|-----|--|
| | | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | |
| 中学校 | ①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%) | 56 | 49.3 | 60 | 51.6 | 60 | | 60 | | 60 | | |
| | ②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%) | 78 | 90.4 | 90 | | 90 | | 95 | | 95 | | |
| | ③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%) | 93 | 92.7 | 93 | | 95 | | 95 | | 95 | | |
| | ④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況 | 設定(%) | 100 | 100 | 100 | | 100 | | 100 | | 100 | |
| | | 公表(%) | 60 | 89.6 | 65 | | 70 | | 75 | | 80 | |
| | | 達成状況の把握(%) | 80 | 94.8 | 85 | | 90 | | 95 | | 100 | |
| | ⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%) | 45 | 42.8 | 45 | 44.8 | 48 | | 48 | | 50 | | |
| ⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%) | 78 | 92.4 | 90 | | 90 | | 95 | | 95 | | | |

| 校種 | 指標内容 | 2023 | | 2024 | | 2025 | | 2026 | | 2027 | |
|-----|-----------------------------|------------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|
| | | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 | 目標値 | 達成値 |
| 小学校 | 「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況 | 設定(%) | 100 | 98.2 | 100 | | 100 | | 100 | | 100 |
| | | 公表(%) | 60 | 83.9 | 65 | | 70 | | 75 | | 80 |
| | | 達成状況の把握(%) | 80 | 92.1 | 85 | | 90 | | 95 | | 100 |